

すべての学生は民学団に結集しよう

再度大学協議会会見で 予算協議会 対市交渉団 を立ち上げよう

1 市大予算拡大斗争の現局面

昨年以来斗われている市大予算拡大斗争は市との交渉段階を迎えて、大きくもりあがる中で発展してきた。昨年12月24日の大学協賛会見では、これまでの技術的対抗の反省から中大予算全額徹底的の、具体的保障が問題となり、大学協賛会から ① 市長、財政局長等に、学長、部長長がたり、事務局長に一任しない ② 公大協会の切きかけ ③ 学生と交渉の情勢交換を行う連絡協議会の設置、が提案された。このことは、大学側の今までの消極的立場からは、非常に前進であるが、まだ多くの不十分点をのこしている。代々積極的に、予算拡大の具体的保障を要求していかなければならない。

2 市大予算拡大斗争の意義は何なり

市大予算拡大斗争のオ一の意義は、大学自治の物質的、経済的基盤を確保することである。これについては大学の社会的責任、使命を貫徹することはできないのである。オ二の意義は、市大予算拡大の斗争が大阪市の独立本位の財政政策との対決が不可避である以上、反独占斗争の一環として存在していることである。オ三の意義は、この斗争を通じて学内の統一戦線形成を達成し、大学全体を反独占の立場にたてていくことである。このために全てのクラスに予算獲得委、全学的に五者共闘を強化していく必要がある。オ四の意義は、大学の民主的改革への方向性を示すことにも、その具体的保障をもちとっていくことである。

再度大学協議会会見で

3 予算獲得の具体的保障!! 対市統一交渉団、

予算全学協議会の設置をもちとろう。

1月13日(あるいは14日)の大学協議会との会見に参加し、次のことをもちとる必要がある。

4 全学対市統一交渉団の設置

予算斗争は対市の交渉の局面を迎えている。大学の全構成員からなる全学対市統一交渉団をつくらねばならない。これは教員側の言うよう、教官は教官で、学生は学生でといった立場ではなく、大学人全員が一致して対市にある正式機関であり、市大予算の大幅実現をめざし全構成員の協議で交渉をおしすすめるものである。その構成は学長、各学部長、学生部長、学生代表、事務局長から成る。

5 予算全学協議会の確立

大学協議会から提起された、連絡協議会は、予算交渉に於ける情報交換をけけるためのものでなく不十分である。対市交渉の具体的方針は、教官、学生、の合意に基づいて打ち出さなければならず、大学協議会から提出された連絡協議会はこの視点で活動している。市大予算協会は連絡協議会の不十分点を克服し、市大協会の拡大と大学の民主的改革の視点を提起している。即ち予算全学協会は、大学協議会、学生自治会等から構成され、その任務は、対市交渉の具体的方針を協議する機関である。又、予算全学協会は、来年度からは、予算案の作成から交渉に至るまでの全過程を協議する機関として発展させていかなければならない。